



第6回九州女子ミッドアマチュア選手権競技
第6回九州女子シニア選手権競技

競技報告 (2018/9/6)

写真と記事 : M. Kikutake

女子ミッド 3オーバー 75

今田 ^{ゆう} 夢美 (筑紫ヶ丘)

プレーオフ制して初優勝

女子シニア 5オーバー 77

比嘉 ゆかり (オリオン嵐山)
が初優勝



両選手権は6日、佐賀県唐津市の佐賀ロイヤルゴルフクラブ(ミッド、シニアともに6060ヤ、パー72)で18ホールストロークプレーで行われた。

ミッド(M)アマチュア選手権は34歳の今田夢美(ゆう、筑紫ヶ丘)が3オーバーの75で並んだ29歳の黒石沙也佳(若宮)をプレーオフで下し、初出場で優勝。女子シニア選手権は55歳の比嘉ゆかり(オリオン嵐山)が5オーバー、77で、2位の島田会美子(ワールド、52歳)に1打差をつけて初優勝した。比嘉も女子シニア初参加での栄冠だった。

(写真は比嘉ゆかりⒺと、今田夢美Ⓕの両選手)

選手権には25歳以上が対象のMアマチュアに62人、50歳以上の女子シニアに90人(欠場3人)が出場。一時期の酷暑ぶりも一段落してこの日は曇り、気温28.6度、南の風1㍎と好コンディション。ミッド、シニアともに大きなトラブルもなく、順調にホールアウトした。

今田は3ホール目で黒石を下して栄冠

そんな中、女子Mアマは3オーバーで並んだ2人によるプレーオフとなったが、3ホール目にパーとした今田が、パーパットを外した黒石に競り勝ち、栄冠を手にした。1打差、76の3位タイには松尾彩(大村湾、37歳)と阿部育子(西日本、37歳)の2人。さらに1打差の5位に一昨年の第4回大会優勝の木村紀子(若宮、27歳)。昨年、渡辺恵理(チェリー宇土)とプレーオフで優勝を争い2位の松尾麻子(佐賀クラシック、47歳)



は8オーバーの8位タイだった。その渡辺は日本女子ミッドアマ選手権のシード権を持ち、今大会は出場していない。なお、ミッドの堤寛子（チサン森山）が12番でホールインワンを達成、開催倶楽部から記念品が贈られた。

比嘉は前半の4打差を逆転しての勝利

女子シニアはインスタートの比嘉は5ボギーの41と苦しい前半戦。同じインスタートの島田が37、平岡美智子（福岡、58歳）らが38と先行するのを追う形になった。後半、逆に島田や平岡らがスコアを伸ばせないなかで、比嘉は1バーディー、1ボギーの36と巻き返し、逆転で勝利をつかんだ。1打差の2位は島田で、さらに1打差の3位に第3回大会優勝の松尾賢子（美々津、64歳）で、4位に8オーバーで平岡。前回優勝の本田月枝（くまもと城南、62歳）は26位タイだった。

日本女子ミッドは上位12人

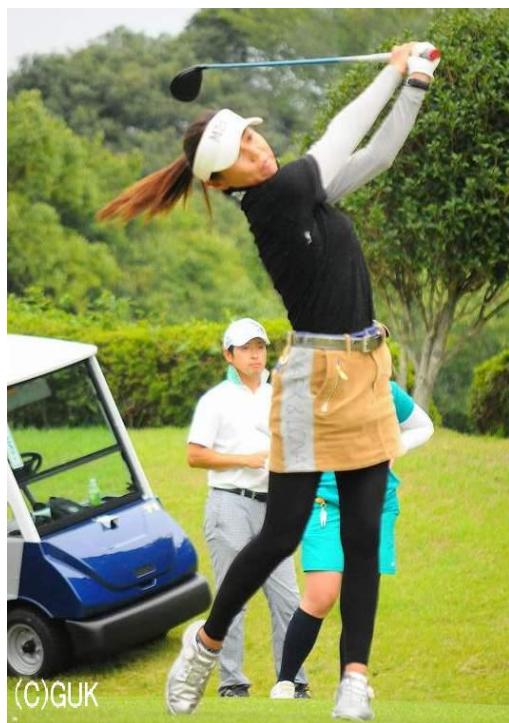
日本女子シニアは上位14人が出場権

この試合の結果、第23回日本女子ミッドアマチュア選手権（11月15、16日・千葉県、富里GC）には8オーバー、8位タイまでの9人と、10位タイの4人中、マッチングスコアカードで選ばれた3人の計12人が出場権。第26回日本女子シニア選手権（10月25、26日・千葉県、カレドニアンGC）は10オーバー、12位タイまでの13人と、14位タイの7人のうち、マッチングスコアカードで選ばれた1人の計14人が出場権を獲得した。



初出場で初のプレーオフ体験で初優勝。

“初づくし”で喜びのミッドの今田夢美



めに」と今田選手はアスリートの表情を見せた。

ミッドアマもシニアも、勝ったのは初めてのチャレンジだった2人だった。

プレーオフ初体験の“初、も重なった今田は、3ホール目で黒石を下しての勝利に、「なぜか、落ち着いてできました。本当に、すごうれしい」とニコニコだった。

本戦ではいきなりボギースタートだったが、3番バーディーで取り返すと、以後は大崩れすることなくスコアをまとめ、先にホールアウトしていた黒石とのプレーオフに持ち込んでいた。

熊本は東海大二高（現、星翔高）の出身で、坂田塾の3期生。青山加織（現プロ）と塾の同期生だったという。それが、高校卒業と同時にぷつぷつりとゴルフを断った。「あはは、燃え尽き症候群で」と笑ったが、20歳のころ博多に出てきて、中洲の水商売の世界に飛びこんだ。クラブ勤めから昨年、クラブのママに。「多くのゴルフ仲間に支えられているんですよ」という。

一時は止めていたゴルフも復活。ゴルフ倶楽部の会員になり、競技にも出始めたのは「今年から」という。しかし、5月の女子選手権は予選落ち。それで負けん気に火が付いたか。優勝をさらってしまった。

この後は日本選手権。「優勝を目指します」。かつては、全国的にレベルが高い中で育った。その体験があるだけに、「九州のレベルアップのため」

シニアの比嘉ゆかりも初出場でのVに「日本選手権も楽しみたい」



「まさか優勝できるなんて」とシニア初優勝の比嘉。スタートからボギーの山を築き、「出だしからショックだった。我慢、我慢と言い聞かせながら回った」そうだ。その甲斐があったか、後半は見違えるようにゴルフが安定しての逆転優勝だった。日本選手権でも「もっと練習して、楽しんできたい。頑張ります」と決意を。

「沖縄の大会では頑張っているけど、(今回は) 仲間に誘われて」の出場だったという。もっぱら、仲間と楽しめる団体競技の日本スポーツマスターズのゴルフに力を注いでいた。その仲間たちと参加するのが楽しみ、ということで臨んだ初めての九州女子シニア選手権だった。

ゴルフは「何かスポーツがしたいな」と26歳のころから始めた。10年ほど前からは、地元のオリオン嵐山ゴルフ倶楽部でキャディーをしながらの生活。「距離感を磨くとか、結構自分のゴルフにも役立っているみたい」と笑う。団体競技には「個人競技にない面白さがある」というが、心配なのは日本スポーツマスターズ(9月12日からの予定)は今年は札幌大会。今回の大地震の影響で開催できるかどうかは、6日現在は未定だ。(追記=主催団体の日本スポーツ協会・日本ゴルフ協会は7日、日本スポーツマスターズ2018札幌大会ゴルフ競技の中止を発表した)